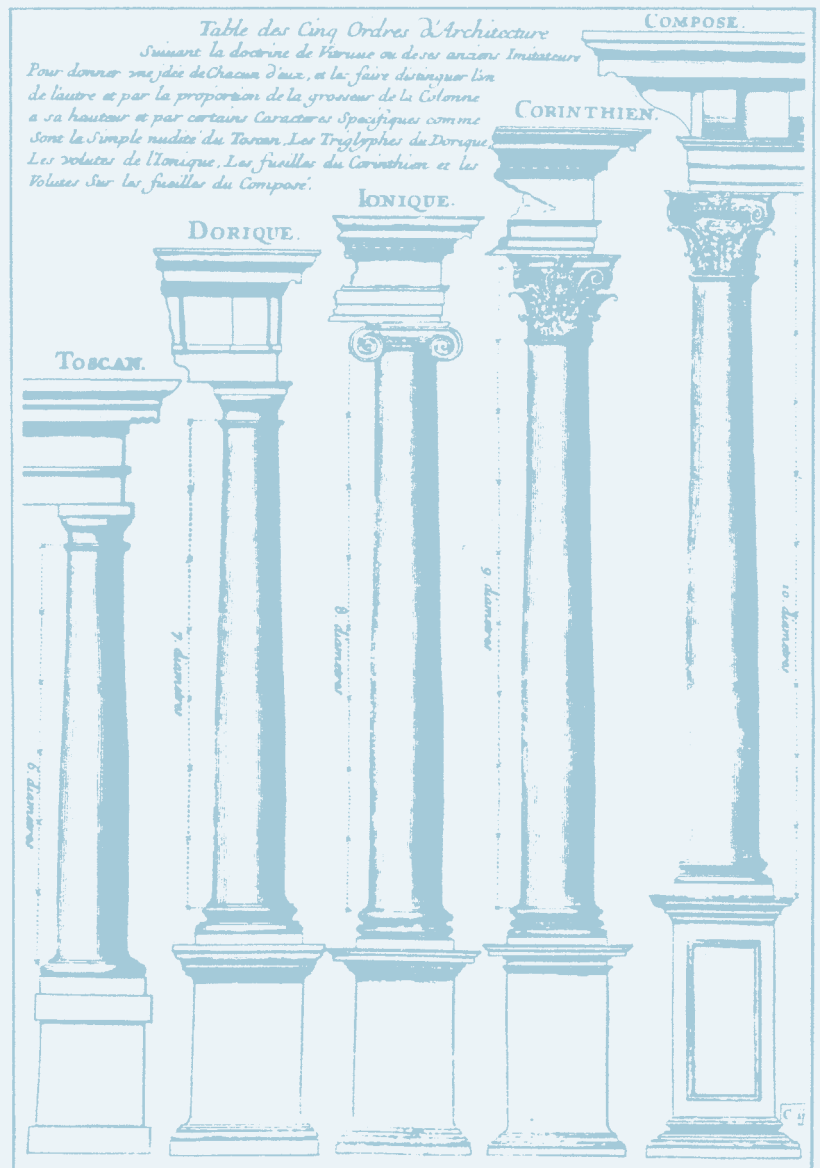


# アカデミーと建築オーダー

土居 義岳  
著

中央公論美術出版

フランス王立建築アカデミーにおける建築オーダー比例についての審議経過を議事録、報告書、講義録などの一次資料から再構築し、ヨーロッパ古典建築のシステムを解明。



# 刊行のことば

本書は、フランスの王立建築アカデミー（一六七一—一七九三年）における建築オーダー比例についての審議をまとめたものである。

オナイアンズが『建築オーダーの意味』で指摘したように、円柱の造形はヨーロッパ建築の脊髄である。この建築パラダイムは、古代に誕生し、ルネサンスで推敲され、さらにフランスの古典主義の時代に、制度として、学として、集団で制定されようとした。建築史がややもすると偉大な個人の系譜となりがちなのにたいし、本書は、あえていえば、血のかよった制度や学の歴史を、しかし批判的に、描こうとした。

コルベールはアカデミーを設立し、芸術の絶対律を確立しようとした。事実、18世紀にできた中央集権的な建築行政は、紆余曲折を経ながら現代にまでつながっているといえる。フランス国内の研究をみると、中央と地方の関係のなかでいわば政治地理学的に建築を読み解こうという動向が顕著である。こうした流れのなかでも、本研究は確固たる位置を占めつつ、現代的な意義を示すことができる。

日本人の立場から、ヨーロッパ建築を移入すべきものとして理想化するのではなく、また拒否すべき反面教師として非難するのでもなく、そもそもヨーロッパ建築はいかなるシステムとして成立しているかを、冷ややかな情熱をこめて、解明しようとしている。

## 目次

### 第一部 建築アカデミーの歴史的な構図

#### 第一章 前史的風景

- 一―一 アカデミーの原像
- 一―二 ルネサンスにおける建築理論の形成
- 一―三 建築家の社会的地位

#### 第二章 王立建築アカデミー

- 二―一 成立とその組織
- 二―二 学の体系化と新旧論争
- 二―三 ブロンデルの教育改革と一八世紀の建築理論

#### 第三章 エコール・デ・ボザールの成立

- 三―一 王立アカデミーの解体と新制度
- 三―二 転換期の組織と建築理論
- 三―三 エコール・ポリテクニーク

### 第二部 アカデミーにおける建築オーダー比例体系の形成

#### 第一章 三つの時期と体系化

- 一―一 第一期における体系化
- 一―二 第二期と第三期における体系の変容



第二章 オーダーの建築ファサードへの応用

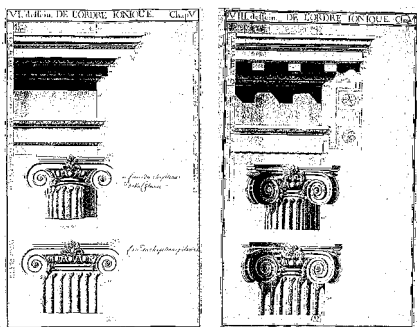


図6 デゴダ『オーダー論』V章、VIIIとVIII、モディオンのない(左) / あるいは(右) 場合のイオニア式オーダー。

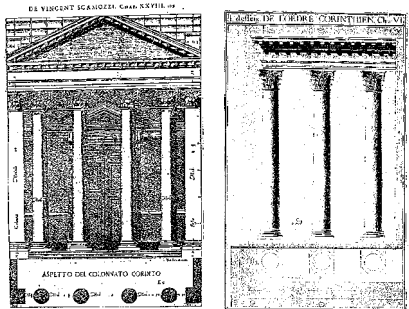


図7 (左) スカモッツィ『建築の五オーダー』124頁。(右) デゴダ『オーダー論』VIII章・1頁。

第二章 アカデミーにおける建築オーダー比例体系の形成

ラ・イールは『市民建築』において、コラム軸線上にはモディオンを繰り返すとともに、古代建築においてこの規則が守られているかどうか検証している。彼はこの規則がローマのパンテオンでは守られていないこと、カンポ・ヴァキの三世では守られているが、二モディオン間の微妙な差は正方形でなければならないという重要な規則は守られていないことを指摘した。彼はデゴダの図面集を採んだことが推測される。

彼はモディオン間隔の数値については、「モデュールと三分の一をえた」モディオンの使用をコリント式オーダーにおいてしか認めなかった。ウイニョラに従ったものと思われる。

デゴダがその『モデュール』で示した規則はスカモッツィとそれに従ったブロンデルの規則の一種の要約である。軸の一致にかなする規則のほか、とくにモディオン間隔が柱間隔に比べて重要であることが強調されている。

「……かくして、コラム中央の上部にはモディオンがひとつ見出され、また同じ各コラム間あるいはピラストル間の正面中央にもその垂直線上にモディオンがなければならぬし、そして、コラム間の距離はモディオンに等しければならぬ。面中央にもその垂直線上にモディオンがなければならぬし、そして、コラム間の距離はモディオンに等しければならぬ。最初は異なるが、これら両者の比例は知覚されるほどに変化させてはならないのであって、同ファサードにおいてはモディオン間隔は一定の大きさをなければならない。」

これはまさにスカモッツィの比例から導かれた理論的帰結である。デゴダはこうしてモディオンの重要性を示したのだが、そこではモディオン間隔は水平方向の比例の単位として、ほとんどモデュールに代わっている。

デゴダについては別の意味でもモディオンは重要であった。『建築オーダー』書では、二種類のイオニア式オーダーが示されている。最初の例は、柱頭はその調子が前後の二面のみで面する「古典風」柱頭であり、コリントは彫飾りで飾られている。二番目のものは柱頭は渦巻きが四方に延びる「近代式」柱頭であり、コリントはモディオンで装飾されている。最初のものよりむしろ二番目の例こそが、建物の外部の面や「規模な建物」にふさわしいと明言されている。だから重要な建物はモディオンが必要であるということになる(図6)。

第二章 オーダーの建築ファサードへの応用

- 二―一 コロネードとアーケード
- 二―二 層オーダー

第三章 柱頭の比例と装飾

- 三―一 トスカナ式柱頭
- 三―二 ドリス式柱頭
- 三―三 イオニア式柱頭
- 三―四 コリント式柱頭
- 三―五 コンポジット式柱頭

第四章 柱身と柱基

- 四―一 柱身
- 四―二 三種類の柱基

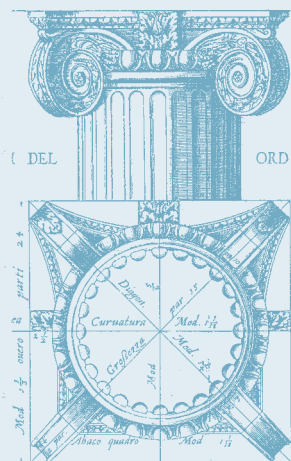
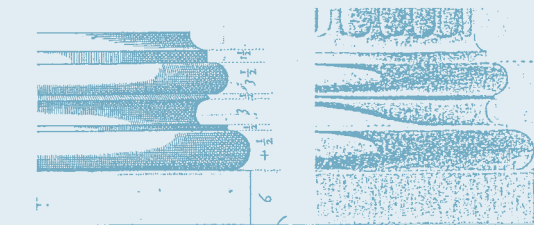
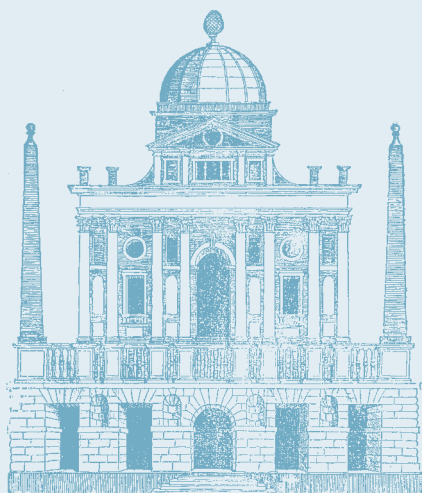
第五章 カップルド・コラムという難題

- 五―一 ドリス式カップルド・コラム
- 五―二 イオニア式カップルド・コラム
- 五―三 コリント式カップルド・コラム

第六章 視覚補正理論

- 六―一 屋外における視覚補正理論
- 六―二 室内の視覚補正理論

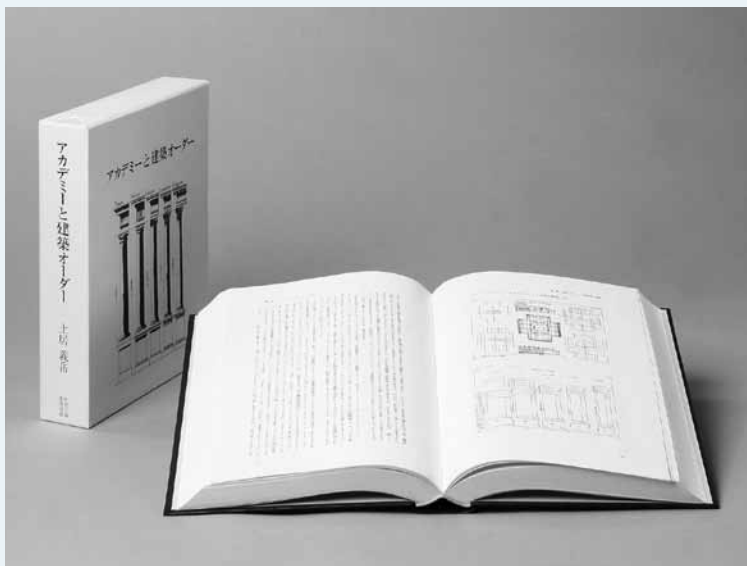
あとがき  
参考文献



#### 著者略歴

1956年 高知県生まれ  
1979年 東京大学建築学科卒業  
1983-87年 フランス政府給費留学生としてパリ・ラ・ヴィ  
レット建築大学とソルボンヌ大学に留学  
1988年 東京大学大学院建築学専攻・博士課程満期退学  
1990年 東京大学工学部助手  
1992年 九州芸術工科大学助教授  
2003年 九州芸術工科大学教授  
2003年 九州大学大学院 芸術工学研究院 教授  
工学博士、フランス政府公認建築家  
西洋建築史

著書 『言葉と建築』(1997)、『対論 時間と建築』(2001)  
訳書 ビエール・ラヴダン著『パリ都市計画の歴史』(中  
央公論美術出版、2002)、ジョン・オナイアンズ  
著『建築オーダーの意味』(共訳、中央公論美術出  
版、2004)など



## 書名 アカデミーと建築オーダー

著者 土居 義岳 (どい よしたけ)

サイズ B5判

ページ数 580頁

図版 489点

体裁 上製本・函入り

定価 31,500円 (本体 30,000円+税)

ISBN4-8055-0486-2 C3052

2005年4月刊

#### 本書の特色

- \* アカデミーの歴史とは、建築書が書かれた歴史ではなく、それらは読まれた歴史である。
- \* アカデミーのパラダイムは、古典主義のパラダイムであり、ヨーロッパ建築のそれである。
- \* 建築の5つのオーダーという「体系」がいかに成立されたかを批判的に再現する。
- \* アカデミーの議事録、報告書、講義録など散逸的な資料から、一種のジグソーパズルを組み合わせるように、ひとつの体系を再構築する。
- \* 議論された内容が、同時代の建築作品にも反映されていることを明らかにしている。

### パリ都市計画の歴史

ピエール・ラヴダン (ソルボンヌ大学名誉教授) 著  
土居 義岳 (九州大学教授) 訳

A4判 上製函入  
本文 586頁 挿図 375点  
定価 47,250円 (本体 45,000円+税)  
ISBN4-8055-0410-2 C3052

ピエール・ラヴダンは、一貫してパリ都市計画の歴史における計画者とその意図に注目し、ローマ治世下の古代からもっともアップデートな現代の問題までを詳しく論じており、本書はパリ都市史研究の基本的文献であり記念碑的著作となっている。

### 建築オーダーの意味

ジョン・オナイアンズ 著  
日高 健一郎 監訳 高原健一郎・土居義岳・上月裕子・  
吉澤京子・河辺泰宏 訳

A4判 上製函入  
本文 406頁 挿図 203点  
定価 39,900円 (本体 38,000円+税)  
ISBN4-8055-0466-8 C3052

古代から近世に至るオーダーの変遷を事例と文献史料に基づいて記述した本書は、オーダー、成立の史的背景、古典様式の理念など、形態と様式の背景にある建築思潮の系譜と発展を重視しており、西洋建築史研究のみならず、美術史、文化史など関連領域の研究者にとっても重要な内容を含む。

#### 関連書籍

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7

電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取扱いは